

1 議員になつて

国会の、ここが変！

私は、1998年の参議院選挙に、民主党の全国比例で立候補し、議員になりました。当時は、各政党が名簿順位を決めていて、NHKで26年間、アナウンサーと解説委員をしていた私は、民主党が比例名簿の1位にしてくれましたので、党をアピールして、選挙戦の17日間だけでも、全国1万5000kmを走りました。ふつうの市民感覚をもった人が政治の場になければ、日本の政治は変わらない。もっと女性が政治の場で発言すれば、ひとりひとりが生きやすい社会ができる。公約として皆さんに約束したことについて、こうした視点で、議員になつて4年、私なりにせいっぱい活動してきたつもりです。

6年の任期の折り返し点を過ぎて、「議員になつて、ほんとうによかった」と思っている私の想いを、この本にまとめました。

まず、議員になつて、「これは、おかしいんじゃない?」「ここが変!」と思ったことを、あげてみます。

先生という呼び方

ひとつは、多くの議員が「先生」と呼ばれておかしいと思わないこと。喜んでいる人も多いのではないかと思います。誰かを教えているわけでも、偉いわけでもないのに。偉いと思っている人が多いから、永田町の論理はわからないといわれるのかもしれない。私は、市民の声を政治に届けるため北京での世界女性会議を契機に作った政策提言をするNGOの全国ネットワーク「北京JAC」(Japan Accountability Caucus, Beijing)の副代表もしていました。国会を訪れるたびに、黒塗りの車を議員会館の入口で「○○先生ーっ」「△△先生ーっ」とマイクで呼び出しているのが、気にさわってしかたありませんでした。私たちの税金で私たちのための仕事をしているはずなのに、なんで「先生、先生」と呼び呼ばれて、おかしいと思わないんだろうと思っています。

「先生」ということには、NHKにいた頃からこだわりがありました。番組の司会をしていて、学校の先生や医師などは「先生」でもいいのですが、社長も議員も、ちょっと偉そうな人は、みんな「先生」と呼んでおけば、まちがいない。そんなあり方に反感を感じていました。つけられる人に「先生」とつけていっても、つかない人がいて、区別することになってしまいます。ですから、いつも、皆さん「さん」で呼ばせてください、とお願ひして、番組の中でも「先生」は使わないできました。各地に講演に行くと、必ずと

いつていいほど、講師は「先生」と紹介され、舞台の横の上には、講演のタイトルと並んで「○○先生」と書かれています。私は、これをいつもお断りして「さん」にしてください、それがだめなら「解説委員」という肩書きをうしろにつけてください、とお願ひしてきました。それでも書いてあるときは、「はさみを貸してください」といつて「先生」を切ったり、うしろへ折り曲げてテープでとめたりして、「先生」を抹消してきた、数々のエピソードがあります。中には、けんかごしで、どうしても「先生」をつけるという主催者もあって、「それなら帰ります」といい、ようやく納得してもらったこともありました。

話が、議員以前の頃のことです。当選して間もなく、「先生」とは絶対に呼ばれたくないと話したところ、先輩のおじさまの議員から「そんなこといつていたって、一年もすれば慣れるよ」といわれました。意地でも、そうはならないという意思を表さなくては、なりません。

思ったことは、すぐに実行する、しかもできれば遊び心もともなつて、というのがNGOの精神、さっそくアイディアを出しました。参議院議員会館214号室の私の事務所を訪ねてくださると、すぐわかります。「先生と呼んだら罰金100円！ユニセフに寄付します」というポスターが、部屋のあらゆる所に貼ってあります。そして、卓上には、透明に、私のカラーの黄色をあしらった罰金貯金箱があります。貯金箱は持ち運ぶのにはかさ

ばるので、私のバッグの中には、いつも罰金財布が入っていますので、ご注意ください。「なぜ100円? もっと高くすればいいのに」という方もありますが、お金を集めることが目的ではなく、呼ばれないことが目的なので100円でいいのです。100円といえども、自分の財布を開いて罰金を入れると「次は呼ばないぞ」と思ってくれることが、ねらいなのですから。

私は、ひとつのことをやりだしたら、徹底してやります。部屋に説明や質問とりに来る役所の人たちは、「先生」ということに慣れきっています。中には「先生といっておけば、いちいち名前を覚えなくてもいいから」などという不屈きな官僚もいます。そういうときは「訪ねてくるときは、名前ぐらい覚えてくるのが常識でしょ」と、一喝して、しつかり100円入れてもらいます。委員会で質問すると、政府から答弁に立つ人は、これまた必ず「○○先生のご質問の……」と「先生」といいます。質問とりに来た人に、委員会で例外はなし、答弁する人に、ちゃんと伝えておいてください、と必ずいいます。議員になった年は、労働委員会に所属していましたが、ある局長は「今日は、何回いいましたか?」ときいてくるので、私も答弁内容のメモとあわせて、「先生」と呼んだ回数を「正」の字で書いてちゃんとチェックしておきます。「7回ですよ」というと、翌日、私の部屋まで、700円の罰金を入れに来たり、ということもありました。また、当時の甘利労働大

臣は、私の質問への答弁の冒頭で「今日は、小銭を持ち合わせていませんので『先生』ではなく『委員』と呼ばせていただきます」と。私は質問の中で、このことをいったわけではなく、前日質問とりに来た人が、ちゃんと伝えてくれたためで、委員会の他のメンバーは、何のことかわからずキョトンとしていたというシーンもありました。

先ほど紹介した車の呼び出しのしかた、国会の職員を、あまりわずらわすのもどうかとは思いましたが、お願いをしました。私は、めったに黒塗りの車は使わないのですが、たまに乗るときは、「先生でなく、小宮山議員と呼び出してくださいませ。」とたのみます。議員会館の受付にいる職員は、順番に何人もの人が交替であたるのですが、誰ひとりやな顔もせず、「先生」と呼ばないでくれています。今では、いちいち頼まなくても、当然のように「議員」で呼び出してくれています。2年くらい前でしょうか、自由党の議員から車の呼び出しのときの「先生」をやめてもらいたいと思うがどうかと賛同を求める文書がまわってきました。私は、すぐに賛同を伝えると、私が第1号の返事ということでした。調べてみると、「先生」と呼び出すようになった歴史は、そう古くなく、それ以前は「議員」で呼んでいたそうです。それなら変えればいいと思いましたが、その後、何の音さたものはないの、「先生」と呼ばれた人が多いということなのでしょうか。

私の「先生」と呼んだら100円罰金は、毎年12月初めに集計して、ユニセフに募金し

ています。なぜユニセフかというと、私はNHKにいた頃から、子どもの問題をいろいろとりあげていて、100円あれば、途上国の何人もの子どもが予防接種を受けたりできるからです。罰金は、1年目が1万3606円。これは7月末に議員になってから4カ月余りです。まだ知らずに罰金を払った人が多かったということだと思います。2年目からは1年分で、2年目が2万2546円。3年目が1万3602円。4年目が1万3110円で、徐々に減っているということは、「先生」と呼ぶ人が少なくなり、成果があがっているということになります。ちなみに、100円罰金なのに、なんで6円とか2円とか端数ができるの？と思われる方もあるかと思いますが、それは、100円なので小銭でかんべんしてとか、小銭入れをひらいて中の小銭を全部入れていくとか、ルールとはちよつとちがう入れ方をする人がいるからです。同じ期で議員になつた仲間からも徴収していますので、お互いに「先生」と呼ぶ議員がいなくなりつつあり、成果は広がっています。

禁煙の提案

次の変なことは、どこでも堂々と喫煙しているということです。世の中から一、二歩遅れてついていくNHKでさえ、会議中は禁煙になっていましたのに。部会や勉強会などの会議室に行つて、各机にひとつずつ灰皿が、こていねいに置いてあるのに、まずビック

リ！さて、どうしようかと考えましたが、思ったことはすぐ実行する私でも、あまり初めから手荒なことをするのは得策でないと、男社会のNHK（私が退職する1998年までは、女性職員は1割もいませんでした）の中で学んでいましたので、ソフトな戦術でいくことにしました。ひとつは、一番先に部屋に行つて、せめて片側の机からは、灰皿を撤去しました。間にアクリル板でも立てなければ、ほんとうの分煙にはなりません。煙から少しでも遠ざかるためです。もうひとつは、卓上に置ける禁煙マークを持ち歩き、座ると私の机にそれを立て続けました。心ある議員は、それを見ると、少しは煙草の本数が減つたり、中には正面に座ると吸わない人もいて、多少の効果はありました。このように煙草の煙にNO！といつていると、「私も煙草はいやなのよ」とか「僕も、小宮山さんのそばに座ろう」などという議員が出てきました。それなら、なぜ今まで黙っていて、何もしないの？とききたい思いました。私のように、思ったことを、すぐ行動に移す人間は、これまであまり国会には、いなかったようです。「禁煙については、第4章でくわしく述べます。」

身分証明書と育児休業制度

国会議員になって、おかしいと思ったことのひとつに、身分証明書がないことがあります。

した。労働者ではないとされているので、労働基準法も適用になりません。ですから、育児休業はもちろん、産前産後の休暇もあります。若い女性が議員になることが少なかつたためかもしれません。衆・参の議院規則には、事故か病気しか休暇の申請の理由がありませんでした。権利として休めることが必要と、女性議員が働きかけて、参議院では橋本聖子さんの出産のときに、衆議院では水島広子さんのときに、議院規則を改正して、休暇を認める理由に、出産を加えました。公務員の特別職である裁判官は、裁判官のための育児休業法があるので、議員の育児休業法も作りたいと調べているのですが、議員は何日休んだら職を失うということもないので無理と言われています。ノルウェーでは、大臣も育児休業をとっているのに。また、健康保険は議員のためのものがあるわけではなく国民健康保険ですし、年金も企業年金のようなものはなく、互助会方式で積み立てています。

身分を証明するものはバツジしかないと不便なことも多かったのですが、2001年の秋に希望する議員には身分証明書を発行することになり、私が入手した証明書には、氏名、生年月日、住所の下に、「上記の者は本院議員であることを証明する。参議院議長」と書かれています。身分を証明するものが何もないというのも、おかしいと思ったことのひとつでした。

トイレのことなど

もうひとつ変だと思ったことは、議員になる前、NHKでアナウンサーとして国会中継をしていたときから感じていたことです。私は、NHKの女性アナウンサーとしては初めて国会中継を担当し、6〜7年担当していました。そのときに困ったのが、広い議事堂の中で、1、2、3階とも、1カ所ずつしか女性のトイレがないことです。しかも、ただ「便所」と書いてあるのは男性用で、一角の女性用の所だけ「婦人用」と書いてありました。これでは、人間は男性で、別に婦人がいるというように、イスラム教の「子どもが○人で、娘が○人です」というのと同じ男尊女卑ではないかと不愉快に思ったものです。

このトイレについては、当選した1998年の秋に青森で行なわれた、第1回の全国女性議員サミットでも、トイレ談義がありました。土井たか子さんが、38年前に当選した頃は、国会には女性のトイレがなかったと口火を切られました。次のスピーカーの森山眞弓さんは、国会にはあったけれど、官房長官になったとき官邸には女性のトイレがなかったといわれました。私も、NHKで国会中継をしたときは各階に1カ所しかなく走って行ったりしていたけれど、議員になった今年は2カ所に増えていたと話しました。このことをある新聞が囲み記事にしている、これを読んだ人は、女性議員サミットって、トイレの話をしていたの？ と誤解するのではないかと思ったりしました。現在は、各階2カ所の女

性トイレには、「女性手洗所」と書いてあります。少しずつ女性の議員が増えることが、こうしたことも変えていくのだと、身近な例で実感しました。

この他にも、変なことは、いくつもあります。

会議室で、議員は中央の机のある席に座り、秘書は壁ぎわのいすに座って、特に許されなければ、ひとことも発言できないこと。

歳費（給料にあたる）を、いまだに銀行振込みにせず、現金で受け取る議員が多いので、歳費が出る日には、係の職員が何人も、議員会館の会議室で、一日中待っていること。

衆議院と参議院は、それぞれの独自性を守るとして、部屋の名前を衆議院では「第○委員室」といい、参議院では「第○委員会」という。賛否の札が、「青票・白票」と「青票・白色票」でちがう。開会するとき議長が木づちでたたかないのとたたくのとで違う。本会議場に予鈴が鳴る前から衆議院は入れますが、参議院は予鈴が鳴らないと入れないという違いなど、数えきれないほどの細かいちがいがあること。

このような、これは変、という普通の市民の感覚を持ち続けたらと思っています。

国会の、こんなことご存じでしたか

国会議員が、こんなにいそがしく毎日仕事をしていることをご存じない方が、多いのではないのでしょうか。少なくとも私の周りでは、私の過密な1日のスケジュールに驚いている友人が少なからずいます。朝は8時から、部門会議やPT（プロジェクトチーム）、WT（ワーキングチーム）の会議、勉強会などが入る日が開会中は多いのです。1月に始まる通常国会の会期が150日で6月半ばまでで、臨時国会も2回くらいあることが多く、通年国会に近い状態になっています。8時からの会議ですと、私は東京に自宅があり、国会から15〜20分の所にある宿舎には入れず、自宅から通勤なので、6時45分には家を出ることになります。3人の男の子（もう27歳、24歳、20歳ですが）に、小さい頃から食事だけはなるべく作ってきました。朝、家を出る前に、夕食をできるだけ作ってからです。睡眠時間は5時間くらいで、6時間眠れればうれしいという状態です。そして、1日中、本会議・委員会の他、党の会議などが重なって入ってきて、私と秘書で手分けして次々とするようになります。部屋にもどっても、すぐ次があるので資料などは片づける時間もなく、次々と机の上に積み上がっていくことになります。お昼もゆつくりと食べられる日は少なく、フリーザーに食パンをいれておいて、「今からもどるからトーストにしておいて」と歩きながら携帯電話をかけ、もどって5分で食事をして、また次へという感じ。質問を作ったり、皆さんに送るニュースを書いたりする時間も、今日はここを2時間あけると宣言して部屋にこもることができないと、家にもどってから深夜の作業になってしまいます。

そして、週末は、党の仕事などで各地をとびまわり、特に選挙の年は、休日はなしといったもよい状態になります。私は選挙区がないので、党の仕事は多くしていますが、それでもその分楽なはずなのです。政治家は、一に体力、二に体力、といわれるのもうなずけず。

このように、いそがしく仕事をしているのに、議員会館の運用は、おかしいのではないかと、これこそ民間の力をいれて、もっと使いやすくする必要があると感じることが、しばしばあります。8時からの会議があるのに7時50分まで玄関があかず、それ以前だと、ブザーを押して、いちいち衛視さんと呼んであけてもらわなければなりません。そして、会館内の会議室は、以前は午後5時までしか使えませんでした。今は午後7時まで使えるということですが、外部の一般の市民の方は議員と一緒に入れないという不便さです。また、冷暖房が、仕事をしていても、午後6時になると「プシューッ」と音がして止まってしまいます。最近、開会中は午後7時になりましたが、それでも早いと思います。ですから、夜、集会をしたり、何人かで仕事をしたりするためには、ホテルの部屋を使ったり、お金のない私などは、なるべく費用の安い場所を探したりするのに苦労することになります。

議員になれば、黒塗りの車で送り迎えと思っていらいっしやる方が多いのではないでしょう。うか。それは、誤解です。黒塗りの車に乗るのは、国会の委員会の委員長や党の役職者だけです。あと各党に何台か割当てがあり、予約をいれて、あいていけば、時間あたりの料金を払って、どこかまで送ってもらうことができるという程度です。羽田までといっても予約がつかまっているので浜松町までにしてください、といわれるといった具合です。あとは自家用車で通っている議員が多いのですが、私は経費と時間の節約、そして普通の市民感覚を持ち続けるために電車通勤を続けています。自宅から小田急線の喜多見駅まで自転車で乗って、駐輪場にとめます。ラッシュで有名な小田急線で代々木上原まで行き、地下鉄千代田線に乗り換えて国会議事堂前へ、そこから徒歩12〜13分で参議院議員会館の事務所に着きます。ドア・トゥー・ドアで1時間5分ほどの通勤です。重たいかばんを肩にトコトコ歩いてくるので、最初は衛視さんは議員とは思わなかったようですが、もう覚えてもらいました。

よく、民主党はバラバラだといわれます。4つの党から集まって作った党なので、考え方がちがう点がありますが、党ができて2002年4月で4年で、党ができてから当選した議員の方が、衆参ともに多くなっています。バラバラだと皆さんにいわれる原因のひとつは、政治部記者の書く原稿にあると、私は、広報委員長を2年8カ月務めた経験からも

思っています。野党である民主党担当の記者の数は、与党の10分の1くらいしかいません。1人あたり同じ量の仕事をする、民主党の記事は与党自民党の10分の1しか出ないことになります。それに加えて与党の政策はすぐ実現するので記事にしやすいことなどから、何もしないと20分の1、30分の1の報道量になってしまうことになります。その上、政局の記事がほとんどで、民主党についても、あのグループがどうしたとか、あちらとこちらが対立しているとかいう記事が主になるので、民主党はいつもグループの対立ばかりしているようにとられてしまうのです。もつと議員本来の仕事である政策について書いてほしいのです。議員立法を一番多く作っているのは民主党です。しかも、市民のグループなどと一緒に、市民政策調査会などの場も活用して、多くの法案を作りあげています。ところが、1年がかりで作った法案も、記事になってもせいぜい「民主党が○○法案を提出」と2〜3行で片づけられてしまい、よほど注意しないと目にとまらない、というのが現状です。民主党も、まじめすぎるほど議論しているエネルギーの3分の1か、半分くらいは、皆さんへのアピールに使ってもよいのではと思っていますが、政治記者やデスクの姿勢にも、大いに疑問があります。